



未来へ繋ぐ 気候変動対策を 加速!!

地球規模での気候変動により自然災害は広域・激甚化の様相を強くしています。気候変動は食糧生産にも深刻な影響をもたらします。このため災害に強い国土強靭化を進めるとともに、ゼロカーボン対策を進め気候変動対策を急がなければなりません。

第304回定例会一般質問でゼロカーボン宣言を県に促したところ、県知事は第305回定例会で「2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロをめざして取り組む」ことを表明し、本県は環境省より「ゼロカーボンシティ」として指定されました。

県はキックオフミーティングを開催し、県内市町村や各種団体、事業者、県民と気候変動対策の必要性について考えを共有する予定です。また青森県地球温暖化対策推進計画の改訂に繋げていくことにしています。

次の世代に誇れるふるさとあおもりを繋いでいきたいと思います。

【主なプロフィール】

建設委員会委員
新幹線・鉄道問題対策特別委員会委員
議会改革検討委員会委員
県議会スポーツ議員連盟副会長
青森市立沖館中学校評議員
青森商工会議所参与
日本行政書士青森県政治連盟顧問
沖館地区社会福祉協議会顧問
青森県防災士会相談役 防災士
2級知的財産管理技能士 経営士
温泉入浴指導員 温泉観光士
保護司

青森県議会議員

いぶき信

県議会
ニュースレタ
2021
Spring



クラスター発生防止にむけ行政支援を要請!

県内の接待を伴う飲食店や介護施設等でクラスターが相次いで発生しています。特に外部から利用者が訪れるデイサービスセンターをはじめ介護施設等では重症化リスクの高い利用者との3密が避けられないため、スタッフやその家族にも過重なストレスが及んでいます。

感染症学の専門家で東北医科薬科大学の賀来満夫特任教授は、昨年11月16日に開催された「ストップ感染症サミット2020in青森」の基調講演で、マスク・換気・手



ストップ感染症サミット2020in青森

指消毒とともに、空気感染やエアロゾル感染対策を徹底するには、換気のタイミングを可視化する二酸化炭素濃度計測機器や、低濃度オゾン発生器、紫外線殺菌照射装置、簡易陰圧装置等、空気中のウイルスを除菌・滅菌しウイルスを拡散させない先進新規技術の活用を推奨しています。

私は感染症学専門家の提言を踏まえ、飲食店や介護施設等への先進新規技術機器導入を図る行政支援を急ぐよう県副知事に要請しました。

県内で発生した介護施設等でのクラスター事案を検証し、クラスター未然防止に繋げるべきです。

コロナ克服へ祭り・イベント開催ガイドラインを作成!

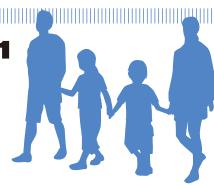
昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、祭りやイベントが中止に追い込まれ、本県の基幹産業である観光産業に深刻な影響を及ぼしました。新しい生活様式の定着と経済を廻す取組みへの模索が続くなか、私は青森街商協同組合(加賀谷眞澄理事長)からの相談を踏まえ、コロナ禍の祭りやイベント開催のガイドライン作



成を県に提案していました。本県の祭り・観光イベントを安全・安心に開催するため、県は「十和田湖光の冬物語」や「弘前城雪灯籠祭り」での実証検証を踏まえ、全国初の試みとなる「祭りリノベーションガイド

ライン」を作成し県内市町村と共有しました。

県民全体で夏祭り開催への想いを共有し、コロナ収束へ取組んで参りたいと思います。



在宅医療を考える映画 「いのちの停車場」が上映されます。

新型コロナウイルス感染症により、"いのち"と"医療"に向き合う機会が増えるなか、現役医師でもある南杏子氏が昨年発表した小説「いのちの停車場」が映画化され、5月21日から全国で上映が始まります。青森県内で5カ所の映画館でも上映されます。

在宅医療を通じて"生"に寄り添う医師と患者、その家族たちが紡ぎ出すいのちの物語が誕生しました。"いのち"ある時間はなぜ同じではないのか。誰もがむかえる"いのちのしまい方"をやさしく問う作品です。在宅医療とは、自宅での治療と支え、看取りを通じ、患者と家族の想いを叶える医療です。超高齢社会の進展により地域共生社会を担う在宅医療の必要性が高まっています。

多くの皆さんに是非ご覧戴き、"いまを生きる"ことに向き合う機会にして戴ければと思います。

ストーリー

東京の救命救急センターで働いていた、医師・白石咲和子(吉永小百合)は、ある事件の責任をとって退職し、実家の金沢に帰郷する。これまでひたむきに仕事に取り組んできた咲和子にとっては人生の分岐点。父(田中泯)と暮らしながら「まほろば診療所」で在宅医師として再出発をする。院長の仙川徹(西田敏行)と訪問看護師の星野麻世(広瀬すず)、東京から咲和子を追いかけてきた野呂(松坂桃李)と共に、咲和子は様々な事情から在宅医療を選び、治療が困難な患者たちと出会っていく。これまで「命を救う」現場で戦ってきた咲和子が「命をおくる」現場で見つけたものとは…?



詳しくはこちらにアクセスしてご覧ください。

https://www.toei.co.jp/movie/details/1219107_951.html



東日本大震災から10年

東日本大震災から10年を迎えました。国は復興庁の活動期間を10年延長し、引き続き復興支援を進めることになります。福島原子力発電所事故現場では廃炉作業が続けられ、被災地では風化と風評と

の闘いが続いています。

福島県をはじめ被災地から避難して来られた218名(3月8日現在)の方々が本県で生活しています。被災直後に制度創設に私も関わった、被災者の方々が一時帰宅する際の高速道路利用料無償化は令和4年3月31日まで延長されています。一

日も早い故郷への帰還を願いつつ避難生活の長期化を、ふまえ、本県での生活が安全安心なものとなるよう支援の継続を県に要望しました。東日本大震災の経験と教訓を本県の防災力強化に活かして参りたいと思います。





青森臨港道路交差点に右折レーン設置!

青森フェリー埠頭から国道7号西バイパスへ通じる青森臨港道路にある新田交差点に右折レーンと右折信号機が設置され本格稼働しました。当該交差点は、北海道と本州を結ぶ陸の大動脈の路線です。大型トラック等が頻繁に往来する事故多発エリアで、人身事故も発生しています。県立青森北高校への通学路でもあり、西部第1区連合町会とともに県に道路改良を要望していました。

右折レーンと右折信号機が設置された新田交差点



雪に強い街づくりを!

歩道の堆雪により歩道空間が確保されず、車両が往来する道路を歩く、大変危険な状況が県内各所で続いているます。

交差点の横断歩道では、児童が往来する車両に怯えながら道路で信号待ちをする実態もあります。また道路に出なければバスに乗降できないバス停も多くあります。

超高齢社会に入り、スクラム除雪体制を支えるボランティアの確保は益々困難となりつつあります。これまで以上に効率的な機械除排雪の技術向上を図らなければならないと考えます。



堆雪したままの通学路の歩道

効率的な運搬除雪にむけ堆雪場所を拡充するとともに、県管理国道や県道のうち通勤通学や買い物などの生活道路において、縁石の高さを見直し道路と歩道の一体除雪の可能性を検証すべきと考えます。

青森県道路法施行条例が一部改正され、歩行者の利便性に配慮した道路への構造変更等が進められるこの機会に、新たな除排雪技術の検討や機器開発、導入等の対策を急ぐべきです。